

海洋深層水利用学会事務局長に就任して

今田千秋

(東京大学 大気海洋研究所 客員教授
佐賀大学海洋エネルギー研究所 客員研究員)

本年6月から海洋深層水利用学会事務局長を拝命しました今田千秋と申します。

私は2022年3月末日に東京海洋大学を定年退官しました。在籍中はたくさんの方々にご指導、ご支援を頂きましたこと、この場を借りて深く感謝申し上げます。

私はこれまで東京大学大学院、財団法人微生物化学研究所および東京海洋大在籍中の約40年間、海洋微生物について一貫した研究を行ってまいりました。研究活動の中のある出会いがきっかけで、海洋深層水について知る事となり海洋深層水の研究を始めました。このおかげで海洋深層水利用学会に入会し皆様とお会いすることができたのです。これは、微生物が私にプレゼントしてくれた出会いであったと思います。海洋深層水の研究では特に新規微生物、新規物質の探索を行ってきました。私は個人的にこれを「宝探し」と呼んでいます。

定年後はしばらくの間、自宅で研究に関する論文などを閲覧するとともに趣味のドライブで各地の海に行った際に採集した様々の海洋サンプルから微生物を分離して、ワインや豆乳ヨーグルトを試作したりして、微生物と楽しく遊びつつ、「宝探し」を続けておりました。

その後、2022年11月から佐賀大学海洋エネルギー研究所の客員研究員の席を頂きました。

そして、本年4月より東京大学大気海洋研究所客員教授に就任し、同大学の柏キャンパスにおいて海洋深層水からの有用微生物分離に関する研究を行っています。

海洋深層水は低温、低有機物濃度、高水圧など多くの点で表層水とは異なっているうえ、一般的に入手が困難であることから、表層には存在しない新種を含む未同定微生物が生息しており、有用微生物の宝庫と考えられています。

これまで海洋深層水に存在する微生物については、富山県立大学五十嵐康弘教授などのご協力を得て基礎的な共同研究を実施してまいりました。また応用研究については、株式会社ディーエイチシー海洋深層水研究所長の山田勝久博士、沖縄県久米島町の(株)ポイントピュールの大道敦社長や(株)ジーオーファームの鷺足恭子社長などのご協力を得て行って参りました。思えば、数々の出会いに恵まれていたと感じます。今後も引き続き継続していきたいと考えています。

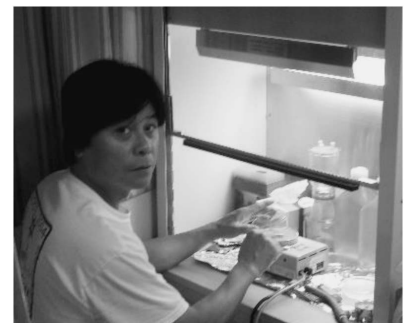
これまで全国15カ所の取水設備の中から、伊豆赤沢、沖縄県久米島、および富山県滑川の3カ所の



東京海洋大学海鷹丸乗船



海洋サンプリング



船上での微生物分離



東京大学大気海洋研究所研究室の花見（前列右から2人目が筆者）



同研究所内の特別セミナー（特別セミナーでの講演）

海洋深層水から乳酸菌、酵母、放線菌など様々な有用微生物を分離し、その諸性状などを本学会大会や海洋深層水研究などで報告してまいりました。今後はこれをさらに拡大して、新潟県佐渡市や三重県尾鷲市、鹿児島県甕島など海域の異なる取水設備からも有用微生物の探索研究を実施すれば、また違った微生物が発見されるのではないかと考えています。

コロナウィルスの影響もかなり終息に向かいましたので、これまで培ってきました海洋深層水からの有用微生物分離のノウハウを用いて、韓国や台湾の海洋深層水を研究している旧知の研究者とも再交流を深めつつ、有用微生物の探索に関する共同研究を展開していきたいと思えます。

本年度から佐賀大学海洋エネルギー研究所有馬先生の後任として本学会事務局長に就任しましたので、本学会の使命、方向性、有益な情報を届け、若い研究者を育む、また産学官を繋ぎ関係性を深めるコミュニケーション促進に、微力ながら貢献でき



こしき海洋深層水株式会社訪問

ばと思っております。どうか今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。